

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会
〒102-0082 東京都千代田区一番町 23 番地 3
日本生命一番町ビル 5 階
公益社団法人 青年海外協力協会 気付
Tel. 03-6674-1331 E-mail: japan.malawi@gmail.com
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1538 万人 (2011 年世界銀行)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：ジョイス・バンダ
為替レート：US\$ 1 = MK 324.43 (9 月 1 日現在)
MK 1 = 0.30 円 (9 月 1 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数:200人(9月1日現在)



マラウイ共和国 国旗



ニュース

新会長ご挨拶



日本マラウイ協会
会長
野呂 元良

本年5月新たに会長に任命されました野呂元良でございます。2年前に副会長に任命されて以来、

本協会に関わって来ました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

来年は、マラウイ独立50周年の佳節を迎えます。この機会に日本とマラウイの関係を本格的な飛躍の年にしたいと希望しております。皆さまのご協力をいただければ嬉しいです。

さて、本年5月にTICAD Vのために来日されたジョイス・バンダ大統領におよそ3年ぶりにお目にかかり、同大統領と共に種々お話をする機会がありました。バンダ大統領は再会を本当に喜んでおられました。また、マラウイ初代常駐大使である小生の活躍を高く評価して頂き、恐縮しております。更に、今度いつマラウイを訪問するのか、今年は訪問しないのですか、との御質問もあり、大変懐かしくまた有意義な語らいを持つことが出来ました。アフリカでは2番目の女性大統領ですが、不屈の忍耐力・精神力と勇気と知性の三拍子を兼ね備えたアフリカ最高の大統領の一人といっても過言ではないでしょう。

滞日中、横浜で、バンダ大統領の歓迎レセプションが開催されましたが、在日マラウイ大使館員始め多くのマラウイ人の友人と共に、日本マラウイ協会の理事ら代表11名が出席することが出来ました。このような素晴らしい機会を設けて頂いたNgwenya在京マラウイ大使の格別の御配慮に厚く感謝申し上げます。この歓迎会は、日本・マラウイ友好関係の増進に大いに貢

献したと確信しています。

マラウイにおけるマラウイ日本協会の設立も重要です。一日も早く、活動を開始され、本協会との連携活動が出来ますよう祈っております。

イギリスの歴史学者トインビーは、地球の北極上から見た場合、歴史の流れは右回りの法則を示しました。20世紀はアメリカとアジアの世紀でしたが、21世紀はアジアとアフリカの世紀を予言しています。我々はかのアフリカの地マラウイに生活し、その可能性を充分認識しているのではないのでしょうか。

「アフリカの平和と安定なくしては、21世紀世界の平和と繁栄はない」と日本国の総理として始めてアフリカを公式訪問された森元総理は述べられました。アフリカのために働き、貢献することは、日本とアジアの平和と繁栄に直接つながる事を、深く自覚したいものです。

アフリカに貢献・寄与出来るのは、マラウイに生活した我々です。「アフリカの温かき心」マラウイは、そこに住む悩み多き異郷の人に EMPATHY (他人を思いやる心) を教えてくれました。その心 (惻隱の情) は古来より日本精神の中核をなすものです。マラウイと日本の共通性は他人を思いやる温かき心であり、それ故、我々一人ひとりがマラウイを愛し、マラウイが忘れられないのではないのでしょうか。

アフリカの水を飲んだ者はまた、アフリカに戻ると言われます。私も今度再びマラウイに降り立つ時、真のふるさとはここだと思ふかもしれません。

最後にマラウイ協会を運営するにあたり、縁の下のかもちとして種々アドバイスをいただいている竹谷事務局長はじめ各理事には日ごろから大変ご負担をおかけしております。これまでの御協力・活動に対し甚深の感謝を申し上げますとともに、今後とも引き続き、ご協力の程よろ

しくお願い申し上げます。

最後に、本協会会員お一人お一人のご健勝とご多幸を御祈念申し上げますと同時に、これからも両国のためにお互い連携を強化しつつ邁進してまいりましょう。

ニュース

第31回通常総会と理事会開かれる

日本マラウイ協会の第31回通常総会が2013年5月18日(土)15:00から、東京・市ヶ谷のJICA地球ひろばセミナールームで開かれた。

第1号議案では平成24年度事業報告と決算報告および会計監査報告が次の4つの分野について行われた。

- (1) 広報活動：機関紙KWACHA第48号、第49号発行など。
- (2) 文化・交流活動：国情セミナー、シマを食べる会開催、チェワ語辞典統合改訂2版発行など。
- (3) 国際交流活動：マラウイウォームハートプロジェクト募集/実施、マラウイ母の会への協力、在マラウイ・マラウイ日本協会との協働にむけての活動など。
- (4) 組織活動：会員の入会勧誘活動、長期会費滞納者/住所移転先不明者の退会の処理など。



▲ 総会終了後、出席者全員で

第2号議案の平成25年度事業計画と予算案では、前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。広報活動では第6回協力隊まつり、グローバルフェスタJAPAN 2013への出展、文化・交流活動ではチェワ語辞典統合改訂2版の残部販売と在マラウイ・マラウイ日本協会との協定締結を推進することが盛り込まれた。

第3号議案の役員改選では数原会長の顧問就任と野呂副会長の会長就任など新役員体制(別表)が示された。

各議案は質疑応答の後、議長が一同に諮り、満場一致で承認された。

その他として、TICAD V出席のため来日するジョイス・バンダ大統領歓迎レセプションを5月31日に在京マラウイ大使館と共同で開催することとなった。

<日本マラウイ協会役員一覧>

役職	氏名	経歴/マラウイ派遣年等
顧問	数原 孝憲	元青年海外協力隊事務局 元アイルランド大使
会長	野呂 元良	前マラウイ大使
専務理事	貝塚 光宗	青年海外協力協会理事
理事	長沼 秀明	アフリカ開発協会事務局
	保阪 努	青年海外協力協会常務理事
	姫野 靖征	青年海外協力隊技術顧問
	山村 俊之	青年海外協力協会参与
	小松 健大	S47-1 派遣
	殿村 孝	S47-1 派遣
	中小原 淳	S49-2 派遣
	木内 行雄	元豊橋科学技術大学教授
	藤村 俊作	S50-2 後期派遣
	鶴田 伸介	S51-1 前期派遣
	吉田 均	S52-1 後期派遣
	佐藤 賢三	S53-2 後期派遣
	郡 昭治	S55-2 派遣
	室伏 春彦	S58-3 派遣
	松平 隆一	S63-3 派遣
	中川 総	H3-3 派遣
監事	竹内 明久	S51-2 後期派遣
	飯島 ともこ	H14-3 派遣



歓迎レセプションが、在京マラウイ大使館と日本マラウイ協会によって行われた。当協会からは、数原顧問、野呂会長、貝塚専務理事、竹谷事務局長、保阪理事、姫野理事、吉田理事、中川理事、三浦OG、野本OB、元ムズズ大学学生の今村さんが参加した。

会場には19:30までに集合し、大統領到着まで約1時間あるため、大統領に同行している政府関係者と懇談を行うことが出来た。

20:20に大統領が入場されると全員起立して拍手で迎えた。雑壇に左からNgwenya在京マラウイ大使、中央に大統領、右手にリチャード・バンダ司法長官、奥には武官が座った。間もなくマラウイ国歌斉唱が始まった。

まず、在日15年になるムコンボ氏の会式の祈りがあり、当会の野呂会長の歓迎スピーチ、在京マラウイ大使歓迎スピーチと会は進行した。次に在京マラウイコミュニティ代表として、在日30年以上になるンテンダ博士のスピーチが行われた。博士はマラウイの運輸通信の改善、国外で活躍する国民へのさらなる支援等を述べた。

大統領からは、日本の支援、JOCVのマラウイ国内の各分野での継続的協力への謝意が述べられた。その後、大統領へのプレゼントセレモニーに入り、当会からは野呂会長よりチェワ語辞典統合改訂2版と野呂会長とインダナ・マンダ氏共著 Africa Awaking (詩集)、当会の紹介文書(英語

▲ジョイス・バンダ大統領を囲んで版)が贈呈された。また、飛び入りでマラウイでヒットした山田耕平OBの歌が本人により披露され、大統領もご満悦だった。

最後に大統領を囲んで記念集合写真を撮り、お開きとなった。

イベント 独立記念日行事開かれる

日本マラウイ協会は2013年7月13日(土)、東京・市ヶ谷のJICA 地球ひろばでマラウイ独立49周年記念行事として、新帰国隊員報告会、国情セミナーおよびシマを食べる会を開催した。

新帰国隊員報告会は今回からの企画で、14:30から平成22年度3次隊の佐藤健大OB(家畜飼育)が本来業務と余暇活動を含めたプレゼンテーション資料を用いて報告した。

国情セミナーは15:00から、在京マラウイ国臨時代理大使 Ms. Rosemary Kanyukaが最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った(要旨は次記事参照)。

16:00からはシマを食べる会に移った。冒頭、物故隊員へ1分館の黙祷を行い、次にテーブルによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏、野呂会長の独立49周年への祝辞、Rosemary Kanyuka臨時代理大使の答辞、大使館職員と職員家族の紹介と進み、乾杯で会は始まった。

ニュース ジョイス・バンダ大統領歓迎レセプション

2013年5月31日(金)、横浜市ワークピアにてジョイス・バンダ マラウイ大統領の歓迎



▲大統領と当会の吉田理事、ンテンダ博士



▲帰国報告する佐藤健大OB

臨時代理大使・大使館職員・家族・OB/OGら70名を超える参加者は、シマを食しながら独立記念日を祝い、懇親を深めた。また、会の後半では、民芸品などが当たるお楽しみ抽選会が行われ、当選者は歓喜に沸いた。

レポート

第6回ウォームハート
プロジェクト報告

＜青少年センター床板貼り付けプロジェクト＞

平成23年度2次隊
和泉澤 浩

1. プロジェクト申請の経緯・概要

1992年、先輩隊員によって始められたマラウイ剣道。マラウイ剣士の熱意、そして歴代隊員のサポートによって、剣道はマラウイに根付き20年を超えました。

熱心に剣道の練習や普及に励むマラウイ剣士達ですが、剣道を行なう上で様々な課題も抱えています。まず胴衣や竹刀、防具という剣道に必要な物品の不足。そして稽古場としては不十分な環境設備。

マラウイ剣士の日々の稽古場として使用しているブランタイヤ青少年センターには、屋外にサッカーグラウンド、バスケットコート、テニスコート等あり、屋内には多目的に使用されている施設があります。日々の鍛錬は、床がコンクリートの屋内施設にマットを敷き詰めて行われたり、屋内施設が使用できない時は、屋外のテニスコートの空いたスペースを使って炎天下の中、照りつける直射日光で熱くなったセメントの上で裸足で行なわれていました。屋内施設の練習でも床全体に敷くマットが十分にあるわけではなく、床がコンクリートなため衝撃が強く身体を痛めやすく、また施設の補修がされずび割れが目立ち、怪我の恐れがありました。そのような練習環境の中、剣道を行なうに十分な設備の整った稽古場をつくる事は、マラウイ剣士をはじめ、マラウイ剣道を支える隊員達の願いでもありました。

今回、剣道の稽古を行なうためには、道具と身体を痛めない床が必要であるとの考えから、床板

の貼り付けという本プロジェクトを立案、計画にいたりしました。このプロジェクトは、今後マラウイにおいて剣道、そして他の室内競技が発展し、競技者の怪我の減少と健康促進が期待できます。また施設環境の改善から質の高い稽古を行なえ、有望選手の育成にも期待が持たれます。

2. 経過報告

2012年9月

ウォームハートプロジェクトの申請

2013年2月

日本マラウイ協会による申請の承認及びプロジェクト費用の送金

3月

見積もり書の取り直し(物価高騰のため)

5月 工事業者及び材料の確定

6月 材料の購入、改修工事開始

7月27日 青少年センター床板完成
剣道場初稽古

9月1日 剣道場引き渡しセレモニー

3. 効果

- ・ 剣道の稽古を行なうにあたって、コンクリートやマットの床では味わえなかった床板の上の素足の感触の良さ、踏み込むときの感覚など木の板だからこそ味わえる良さがあります。なによりコンクリートの床に比べ、足への負担が減り稽古を充実させることができている。他の室内競技者からも感謝の声があがっています。
- ・ 稽古場の整備によりマラウイ剣士達の剣道に対するモチベーションもあがり、毎週の稽古にいつもより多くの剣士が参加しています。また剣

54 SPORTS

KENDO
BY LUSAYO KANYIKA

KENDO Association of Malawi's efforts of developing the minority sport have been donated by a K1.8 million donation from the Japanese Kendo community.

The association's president Anshiro Somba said the donation had come from the Japan Malawi Association which is based in Japan, the Japanese community in Malawi and a Japanese Kendo athlete who is based in Mozambique.

"All these are Japanese citizens who once worked in Malawi as volunteers and they saw the need to help us. Some of them were Kendo instructors," he said.

Kendo Sato is one of the instructors behind the drive. Somba said the donation was solely aimed at the construction of a wooden floor

at the Blantyre Youth Centre (BYC) Hall. "Our aim is to construct a hall for our practices. However, the amount was not enough therefore we decided to put up a wooden floor at the BYC," he said.

According to the association, the project is currently in progress.

On the impact the donation would make on the sport in the country, Somba said the athletes would now have a better experience when practicing the sport.

"The wooden floor is comfortable for indoor games. There are no injuries even if one makes a heavy fall," he said.

Kendo receives K1.8m
Japanese donation

Apart from that, it is also internationally recommended that Kendo athletes must practice on a wooden floor.

Somba also said other martial arts disciplines that use the hall would also benefit from the project.

The Kendo president said the association was grateful to the Japanese for the donation.

"We never expected that they would remember us by helping to develop the sport. Now our athletes will play the game without fear of getting hurt," he said.

This donation has spurred the association which has aligned a number of activities to enhance the growth of the sport.

Some of the activities are hosting a Kendo workshop in August and holding a tournament later this year.

Some Kendo athletes will also have an opportunity to sharpen their skills in South Africa in October.

The Association said it would come up with various fundraising activities to supplement their annual allocation from Malawi National Council of Sports in order to fulfill the programmes.

Kendo means 'way of the sword' and is a martial art sport whose athletes mainly rely on the sword as the major weapon.

▲ 新聞に掲載された記事

道場で熱心に稽古する剣士達の姿を見て他のマラウイ人も剣道に興味を持ち、新たに稽古に参加してくれたりしています。マラウイ国民の剣道への理解が深まるとともに、今後さらに多くのマラウイ人が剣士としてマラウイ剣道を継続させていってくれるものと思われれます。

・ 日本の武道である剣道を剣道場で行なうことによって、武道の持つ精神的な部分や正座や礼儀作法などの日本文化の理解、普及にも繋がっていると感じます。

4. 反省点

- ・ 今回のプロジェクトは、スポーツ協会との話し合い、見積もり、業者及び材料の選定、交渉をすべてマラウイ剣道協会の会長であるソンバ氏を中心に行なわれ、我々日本人は、各要所での確認のみにとどめました。そのおかげもあって、マラウイ剣道協会が責任を持って自主的に動いてくれましたが、マラウイペースで物事が進み予想以上に時間がかかってしまいました。
- ・ 予想以上に青少年センター室内利用団体が多く、多目的に使われており、競技団体だけでなく、それ以外の団体そして青少年センター管理団体であるスポーツ審議会との話し合いが事前



▲ 完成した青少年センターの床板

にもっと必要であったと感じました。

5. 課題

・ 剣道場を現在の状態のまま未永く維持していく必要があります。プランタイヤ青少年センターの室内施設の床を板張りにし剣道場としているため、剣道以外で使用する団体や利用者も多くいます。室内施設が床板になって喜んでくれている別の競技団体もありますが、その他の団体や利用者に剣道場に対する理解、取り扱い方を管理団体であるスポーツ審議会と共に徹底していかなければなりません。

6. 会計報告

【収入】

ウォームハートプロジェクト資金	1,325,697 MK
(3470.47 US\$ = 327,300円相当*)	
マラウイ剣道サポーターによる寄付	521,802 MK
合計	1,847,499 MK

*「知らない国を知って、知らない人と友達になるパーティー」(代表:田代 恵 様)からの27,300円を含む。

【支出】

ラミネート板	1,747,500 MK
クッション材	23,766 MK
研磨スクート	2,000 MK
厚板7本	6,500 MK
添え木21本	2,730 MK
研磨	2,500 MK
フィッシャー、木ネジ、釘	4,800 MK
工事	50,000 MK
合計	1,839,796 MK

※差し引き残額である7,703MKは、マラウイ剣道協会寄付。また、当初設置予定していました鏡は、物価高騰により予算が足りないため購入しないことにした。

投稿 マラウイ剣道旅行記 2013夏

平成3年度3次隊
中川 総

この夏、マラウイのプランタイヤに3泊4日で里帰りました。今回の目的は以下の4点でした。

- ①マラウイ協会のウォームハートプロジェクトを使って完成した青少年センターの床板剣道場を視察し、そこで彼らと稽古をする。
- ②マラウイ剣道協会がマラウイ国内初の平成25年度外務大臣表彰を受賞することになり(マラウイにおける20年以上の剣道の普及が認められたようです)、その表彰状授与式、兼、道場引き渡しセレモニーに出席する。
- ③日本の皆様から頂いた剣道用品、頂いた募金を使って彼らからのリクエスト品を購入しプレゼントする。
- ④マラウイ剣士たち、そしてサポートして下さっている協力隊員の皆様に会ってお礼を言う。

剣道場の木の床は日本のものとは大きく異なりました。コンクリートの床の上に厚さ1~2センチの緩衝材を入れ、その上に木の板を張り付けたというものでした。実際、素足の感触は意外なことにとても良好で、踏み込む度に床が波打つが稽古はしやすいという不思議な道場でした。あとは、この床が何年持ってくれるかが心配ですが、今後、彼らの手助けとなるのは明らかです。当会役員の一人として関与出来たことをとても嬉しく思います。

9月1日(日)は昇級審査会(※マラウイ国内のみ通用するもので剣道8級~2級まで、その生徒の技術に応じて級を与えるというもの)、外務大臣表彰状授与式、そして平成23年度2次隊のフェアウェルを兼ねた壮行試合と、マラウイ剣道協会にとって、とても内容の濃い一日となりました。



▲表彰状授与式で祝辞を述べる寒川大使

隊員とともに司会進行をして、寒川大使から表彰を受けている彼らを見てみると、1992年当時、子供だった生徒たちが死なずに立派に成長し、仕事に就き、結婚し、家族を養って、そして、20年以上経った今でも剣道を続けて後輩を育ててくれている…こんなに嬉しいことはない…と、とても幸せを感じました。



▲外務大臣表彰状とマラウイ剣道協会会長オースティン・ゾンバ氏(中央)



▲新しくなった床で稽古

※今回の剣道募金活動の収支報告は以下の通りです。皆様、御協力に感謝致します。

◎収入

現金：シマを食べる会の参加者+中川の勤務先より 計 160,500円
その他：中川所属の剣友会、中川、いろんな方から防具、竹刀、道着などなど。

◎支出

海外仕様 垂ネーム 10枚	34,262円
ノートパソコン及び周辺機器	57,236円
マラウイ剣道協会の旗	14,368円
つば&つば止め 14セット	3,080円
成田への荷物運賃3つ分	6,300円
荷物10キロ超過分 空港支払い	5,700円
計	120,946円

◎収支差額：

39,554円 + 638円(中川) = 40,192円
→ 400ドル

余剰金を米ドルに両替してマラウイ剣道協会に寄付しました。

和泉澤 浩 隊員、杉田かなえ隊員をはじめとする沢山の剣道サポーター隊員に恵まれ、今は追い風の中、彼らは剣道を続けていました。良い話ば

かりでなく問題も山積みでしたが、マラウイ剣士のために今後も日本から出来る範囲の協力を細く長く続けて行きたいと改めて感じました。滞在中

お世話になった皆様、本当に有難うございました。



▲寒川大使を囲んで記念撮影

日本マラウイ協会 2013年3月～2013年8月 主な活動内容

(1) 2013.3.27	3月定例会、 機関誌KWACHA第49号発行
(2) 2013.4.20-21	協力隊まつり出展
(3) 2013.4.24	4月定例会
(4) 2013.5.18	第31回通常総会
(5) 2013.5.22	5月定例会
(6) 2013.6.19	6月定例会
(7) 2013.7.13	帰国隊員報告会、国情セミナー、 シマを食べる会
(8) 2013.7.24	7月定例会
(9) 2013.8.21	8月定例会

日本マラウイ協会情報

■ E-mail アドレス変更

当会のメールアドレスは平成25年10月1日よりjapan.malawi@gmail.comだけになります。以前のjapan.malawi@auone.jpは9月末で使えなくなりますので、ご注意ください。

■ グローバルフェスタ2013へ出展

当会は本年10月5-6日に東京・日比谷公園で開かれるグローバルフェスタ2013 (<http://www.gfjapan.com/>)に出展します。パネル展示に加え、マラウイの土産物、当会出版物、マラウイ母の会製作のチテンジバッグの販売等を行います。皆様のご来場をお待ちしております。

■ インターネットでラジオ番組

インターネットでマラウイのラジオ番組を聞くことができます。ZODIAK ONLINEというサイト<http://www.zodiakmalawi.com>で画面右上の「ON LINE RADIO」と書かれたボタンをクリックするとチェワ語のトークやマラウイの音楽が流れてきます。このラジオ局はリロングウェで95.1MHzで放送しているZodiak Broadcasting StationというFM局。マイクロソフトのSilverlightというソフトのインストールが必要ですが、入ってなければダウンロードを促す画面が出てきます。また、画面の左側ではマラウイのニュースも読めます。

■ KWACHAバックナンバー

当会は2013年2月26日に設立30周年を迎えましたが、設立時の機関紙 KWACHA第1号から第50号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧ください。 <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

- (1) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版 (1994年7月発行) A4版40ページ 1部 1,000円 (送料80円)
 - (2) マラウイ旅行ガイド新訂第2版(1997年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサハンの大地へ」 B5版108ページ 1部 1,200円 (送料80円)
 - (3) チェワ語辞典統合改訂2版 (2012年9月発行) A5判194ページ 1部 1,500円 (送料80円)
- 送料は「クロネコヤマトのメール便」扱いで表示しています。上記3種類を複数冊ご注文の場合は次のとおりです。

(1)+(2) 各1冊 = 80円

(1)+(3) 各1冊 = 160円

(2)+(3) 各1冊 = 160円

(1)+(2)+(3) 各1冊 = 160円

購入ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。

●送金の前に、必ず注文内容(希望する「刊行物名」、「部数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」と、どちらの銀行口座に送金するかをメールでご連絡ください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(原則：新宿区市谷のJICA地球ひろばセミナールーム)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法等

入会申込書を当会ホームページからダウンロード (<http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/application.doc>) し、各項記入の上、E-mail添付で当会へお送り下さい。E-mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000円 + 3,000円 = 4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。また、継続会員の方の年会費(個人正会員の場合 3,000円)は、E-mailでご連絡の上、お送りください。いずれもどちらの口座に送金するかE-mailでお知らせください。

〒102-0082 東京都千代田区一番町23番地3

日本生命一番町ビル5階

公益社団法人 青年海外協力協会 気付 日本マラウイ協会
TEL: 03-6674-1331 E-mail: japan.malawi@gmail.com

(1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739

口座名義：日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキユウ店)

当座預金口座 0013125

口座名義：日本マラウイ協会

(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号：00190-7-13125)